

陸上自衛隊 平成28年度観閲式

平成28年10月23日(日)朝霞駐屯地の訓練所(元西練兵場)で観閲式が開催された。9時半和光市駅に到着すると、駅前には既に専用バスに乗るために長蛇の列、バスに乗ると20分ほどして西門あたりで降ろされ、そこで入門検査、飛行機の搭乗の時と同じ方法で、金属探知機、持ち物検査が行われ、招待券の色ごとにゲートが指示される。私は黄色の招待券で第2ゲートが指示される。ところが訓練所を半周する程歩かされ、黄色のスタンドに到着するや、雛壇状のスタンドは略満席、止むを得ず最上段の端の階段上に席を確保する。

目の前には既に自衛官が各部隊ごとに整列して待機していた。微動だにしない。吾々も70数年前このような整列を経験したことがあるが、式の始まる前の整列程苦痛なものはない。

定刻となり、音楽部隊のファンファーレが鳴り響き、観閲官の安倍総理大臣、主催者の稲田防衛大臣等が10数台の車に分乗して入場して来る。

開会の辞に次いで、国旗掲揚、全員起立して注目する。

突然、空から空挺部隊員3名がパラシュートで安倍観閲官の真ん前に降下する。見事な着地に満場の拍手を浴びる。

先ず安倍観閲官の訓辞。PKOや災害救助活動についての自衛隊の活動の労をねぎらい、北朝鮮の核実験や弾道ミサイル発射等により我が国の安全が脅かされてきたが、平和安全法政により、日本を守るための日米の絆はさらに強固なものとなったと

述べ、最後に自衛隊の諸君、日本国民は25万人の自衛隊と共にあります、その誇りと自信を持って任務を全うしてもらいたいと結ぶ。

続いて表彰式、部隊表彰で、陸上自衛隊では沖縄の不発弾の処理で第101不発弾処理部隊、海上自衛隊では弾道ミサイル対応でこんごう、きりしま、ちょうかい、みょうこうの各護衛艦、航空自衛隊では領空侵犯に対して常に早期警戒の任務についている警戒航空隊が表彰された。

愈々待ちに待った観閲行進が始まる。

音楽隊を先頭にして、地元朝霞駐屯地、防大学生隊、普通科部隊、空挺部隊、海上部隊、航空部隊、女性自衛官と続く。

空には、各種ヘリコプターの編隊、輸送機、戦闘機が観閲飛行を行っている。



普通科部隊の観閲行進

地上では車両部隊の行進が始まる。各種の車両が続き、ペトリオット部隊も通過するも、本体は箱の中に入っているので余り迫力はない。続いて2連式の高射砲部隊、重砲部隊、戦車隊が続く。末尾の10式戦車はさすがに迫力満点である。



車両部隊の観閲行進・10式戦車

突然米軍のオスプレイ2機が頭上を通過する。地上では米陸軍の装甲車が星条旗を掲げて友情参加する。

続いて空には航空自衛隊のブルーインパルス部隊6機が展示飛行を展開する。先ず1機がハートのマークを大きく描く、続いて、4機による密着編隊飛行、大きな円や、5条の線を大空に描いた後、最後は5機が大空に向けて五弁の花びらを開かせる。見事な飛行に皆拍手を送る。



ブルーインパルス編隊飛行



大空に花びらが開く



ハートのマークも鮮やか

12時になり、国旗降下、閉会の辞をもって観閲式は終了する。(川島順記)